



タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「行政政策学類」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	問題探究セミナー I		
担当教員	岩崎 由美子		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	行:G
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
備考			
特修プログラム		ナンバリング	g3310010
教育目標との関係 (DPポイント配分)	基盤教育 基盤教育	最新の専門知識及び技術 本質を見極めるための教養と学際性 協働的な問題探究 社会の改善につなげる創造性 市民としての主体的態度	20 % 20 % 30 % 20 % 10 %
授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> ICT機器の活用		
授業概要とねらい	<p>テーマ:「現場から学ぶ地域再生・まちづくり」</p> <p>いまや農山村も地方都市も、少子高齢化が進み、地域社会の人間関係は希薄なものとなりました。地域経済や地域産業は活力を失い、伝統的な地域文化も衰退の一途をたどっています。中山間地域では、多くの山林や農地が荒れたままで放置され、また、地方中小都市の中心市街地は週末になっても店を閉じたままで、人気のない町並みが当たり前のものとなってしまいました。これまでさまざまな公共投資がなされ、地域活性化のための政策が展開されてきたにもかかわらず、地域の衰退になかなか歯止めがかからないのが現状です。</p> <p>この演習では、このような地域の課題解決に向けて、実際に地域に暮らし、そこで生きていこうとする人々が、行政や他地域とのネットワークを構築しながら、地域づくりの主体を形成しようと模索する試みに焦点を当てていきます。例えば、地域産業振興、地域福祉、地域環境、コミュニティ形成など多様な分野の実践事例等から、地域住民の主体的なコミットメントと連携はどのような形で具現化されようとしているのか、その条件と課題はどのようなものなのか、といった観点から、地域問題の解決に向けた理論と視点、方法などを学びます。</p> <p>具体的には、地域再生・まちづくりに関する文献の読解やフィールドワークを通じて、地域が抱える様々な課題の現状や既存の行政施策の問題点等を検討し、また、今後求められる新たな取り組みの方向性について現場での実践に学びながら考察していきたいと思えます。フィールドワークでは、受講生も地域づくりの現場に参画し、住民や自治体職員等とともに生の課題に向き合い検討を重ね、地域再生のための計画づくり(構想)と実行に向けた内発的な展開に関わっていくことになります。</p> <p>この授業の受講を通して、文献や各種統計データを読み込んで、自分の意見・考えを構築し、ゼミメンバーとともにテーマについて議論する力をつけ、さらに、フィールドワークで求められるインタビュー調査等の技法を実践的に学び、フィールドワークで得られた成果を的確にまとめ、発表する力を身につけてほしいと思えます。</p>		
単位認定基準	<ul style="list-style-type: none"> ・研究分野に関する専門知識を修得する。 ・地域が直面している諸課題を理解し、既に得られた知識や資料・情報等を読み解いて、新しい知見を身につける。 ・地域の諸課題を解決するため、地域の諸主体とともにその解決方法を提案し活動する力を身につける。 ・研究の成果や評価を第三者に効果的に伝え、多様な主体と議論する力を身につける。 		
授業計画	<p>文献の輪読とともに、夏休みに行ったフィールドワーク結果を整理してまとめの作業を行います。補充調査を行い、集落行事への参加・農作業体験も複数回実施します。また、フィールドワークから得られた成果について現地発表会を行い、住民・受講生によるワークショップを実施します。具体的な時期については履修生と相談して決定します。</p> <p>第1回:ガイダンス(授業の進め方) 第2回:フィールドワークの振り返り (福島県国見町) 第3回:フィールドワークの振り返り (福島県西会津町) 第4回:フィールドワークの振り返り③(福島県湯川村) 第5回:テキスト輪読 (ライフヒストリー・インタビューについて) 第6回:テキスト輪読 (参与観察調査について) 第7回:テキストをめぐる総合的ディスカッション 第8回:補充調査の検討 (福島県国見町)</p>		

	<p>第9回:補完調査の検討 (福島県西会津町)</p> <p>第10回:補完調査の検討③(福島県湯川村)</p> <p>第11回:フィールドワークの成果発表 (福島県国見町)</p> <p>第12回:フィールドワークの成果発表 (福島県西会津町)</p> <p>第13回:フィールドワークの成果発表 (福島県湯川村)</p> <p>第14回:フィールドワークに関する総合的ディスカッション</p> <p>第15回:まとめ</p>
教材・教科書	初回の講義時に受講生と相談のうえ決定します。
参考図書	<p>受講生の関心を聴きながら適宜紹介しますが、とりあえずは以下の文献を挙げておきます。</p> <p>雑誌『季刊 地域』No.1～(農文協、2010～)</p> <p>佐藤一子他編『食といのちをひらく女性たち』(農文協、2018)</p> <p>『シリーズ田園回帰』NO.1～(農文協、2016～)</p> <p>棚澤能生『農地を守るとはどういうことか-家族農業と農地制度 その過去・現在・未来』(農文協、2016)</p> <p>内山節『増補 共同体の基礎理論』(農文協、2015)</p> <p>塩谷弘康・岩崎由美子『農と食でつなぐ 福島から』(岩波新書、2014)</p> <p>小田切徳美『農山村は消滅しない』(岩波新書、2014)</p> <p>保母武彦『日本の農山村をどう再生するか』(岩波現代文庫、2013)</p> <p>山下祐介『限界集落の真実』(ちくま新書、2012)</p> <p>結城登美雄『地元学からの出発 この土地を生きた人びとの声に耳を傾ける』(農文協、2009)</p> <p>吉本哲郎『地元学をはじめよう』(岩波ジュニア新書、2008)</p>
参考URL	
授業以外の学習	集落行事や予備調査等のフィールドワークへの参加、輪読する文献の予習、発表準備、夏休み中の調査合宿、調査レポートの執筆など。
成績評価の方法	<p>1. 授業やフィールドワークへの自発的かつ積極的な取り組み(30%)</p> <p>2. 授業での報告・討論、フィールドワークへの参加、レポート・報告書の作成(70%)</p>
成績評価の基準	<p>S:単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた(90～100点)</p> <p>A:単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた(80～89点)</p> <p>B:単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた(70～79点)</p> <p>C:単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた(60～69点)</p> <p>F:単位認定基準の学修成果をあげられなかった(～59点)</p>
オフィスアワー	随時受け付けます。電子メールで事前にアポイントメントを取ってください。
授業改善・工夫	学生同士の議論が活発に行われるよう、少人数によるグループワークを実施します。
留意点・注意事項	ゼミの時間以外のフィールドワークが多いので、地域に積極的に出かける意欲をもつ学生の受講を希望します。また、フィールドワーク時の宿泊費・交通費など費用負担が生じる場合があります。
教員の実務経験の有無	

